

現代女性の生活と教育との関連

お茶の水女子大学教授

吉田 昇

今年は国連によって「国際婦人年」と定められ、それを機会に女性の平等、社会的活動、平和への寄与が一段と促進されようとしている。このときに当って、女子教育のあり方を吟味しようとする動きも活潑になってきている。

女子教育のあり方を吟味するには、現代の女性の生活の実態を明らかにする必要がある。現代の女性は、学校教育、職業生活、育児期後の生活のどの点をとってみてもこれまでの時代になかった新たな条件をもつようになってきた。それらの新たな条件は、女性の生き方にとって希望をもたらすとともに多くの深刻な矛盾も作り出している。

女性の身につける教育が、こうした新たな事態に即応した判断をもたらすことは現在の状況のままでは期待されない。現状では女性に対する教育は、男性のための教育の機会をそのまま開放したものであったり、さもなければ、かつての良妻賢母主義に逆行する傾向を示したものであったりする。これからの女子教育は、そうした単なる形式的平等性や現実への妥協を超えて、女性の社会的活動が実質的に促進されるように改革されていかなければならない。

女性の生活は、男性の場合よりも育児期を中心とするライフ・サイクルの影響が顕著である。そうした点から、女子教育の立場は、当然生涯教育の発想をとりいれざるを得ない。だが、その場合の生涯教育論はややもすると安易な現状適応に留まったり無計画の合理化に陥ったりすることになる。そうした隘路に踏みこむことなく、女性のもつライフ・サイクルを自覚して、見とおしをもった主体性を確立していくための教育が必要とされているのである。

現代の状況のもとで、教育を受けてきた女性のもつ強みと弱みとを分析しながら、これからの女性の教育のあるべき姿を検討してみたいと考えている。

参考文献

吉田昇・神田道子編著「現代女性の意識と生活」

1975年 NHKブックス